

☆ 森林教室

第3回 森とのふれあい

私たちの身近にある森林が私たち の生活環境にどのような関わりを持 っているかを、実地に体験して頂く 「第3回 森とのふれあい」を知床 森林センターの業務区域内で、10月 17日に実施しました。参加者は北見 市を中心に34名でした。

知床森林センターのある斜里町は 湖雪防備保安林で守られており、海 岸から草地を経て森林に至る植生の 変化と海風による枝張りの変形した 森林帯などが容易に見られます。

内陸部の農耕地帯には幅72m(40間) の耕地防風保安林が、540m (300間)



間隔で東西南北に碁盤状にはレって、畑を風から守っております。イベント参加のみなさんはイ ンストラクターの案内で実際に林の中に入り、造成中の人工林やほぼ成林した人工林を観察し、 その労苦と年月の長さを知ったようです。そして天然林も立派に保安林の機能を果たし、景観や 環境保全の一翼を担っていることを知りました。

午後からは知床五湖めぐりです。この五湖周辺はかつて昭和10年代に3回目の開拓農民が入り 営農に従事しましたが昭和41年には全戸離村し、吹きさらしの廃屋だけがわずかに当時の面影 をとどめているだけです。 周りの森林も耕地を厳しい自然環境から守ることができなかったので しょう。五湖の小径をめぐりながら湖水を囲む多様な森林相と秋の色彩に、自然界の巧みな配置 の妙を見るおもいです。ここでも厚い森林が五湖を守り、五湖と共に生態系を現出しています。

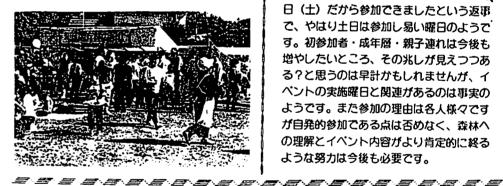
今日のイベントは知床連山を背景に、網走市から斜里町にかけて広がる耕地を守る耕地防風保 安林、斜里海岸の湖雪防備保安林、景観を保持する知床五湖の森林を観察し、森林の効用と私た 5との関わりを知ってもらえたことと思います。遠近を問わず眺めるだけの森林から、一歩中に 分け入り身を置いて、森林とふれあって頂けたと思います。

後日、初参加者の方から森を見る目が変わりましたという使りが届きうれしく思いました。

賑わった知床産業まつり

10月3日(日) 斜里町の「知床産業まつい」 が好天の下で行われました。知床森林センター では今年も多彩なメニューを揃え、センターの 業務をデモしました。とくに今年は19回を数え る「森林レク・知床」の四季のイベントをパネ ル写真で展示、多くの人達が見詰めておりまし た。キノココーナーは説明員張り付けの人気で した。親子連れに人気のあった木工コーナーで はペン立てを工作するドリルの音が響いていま した。年輪あてクイズには多くの人が参加し、 目を凝らしながら年輪を数えていました。

子供丸太切り競技では子供たちは悪戦苦闘し ましたが、優勝したのは今年も女の子、男の子 はくやしがっていました。秋の暖かい一日会場 はイベントや出店で賑わい、近隣町村の見物客 も多く成功裡に終った知床産業まつりでした。





「森林レク」 参加し易い曜日は? 「森林教室」

今秋九月以降、森林教室2件2日、森林 レク1件2日の4日間実施しました。実施 曜日は木金土日の各曜日ですが、初参加者 が目立ちました。また初参加者で親子連れ があり、日曜には一家4人参加もありまし た。話しをすると、一度は参加したかった 日(土)だから参加できましたという返席 で、やはり土日は参加し易い曜日のようで す。初参加者・成年層・親子連れは今後も 増やしたいところ、その兆しが見えつつあ る?と思うのは早計かもしれませんが、イ ペントの実施曜日と関連があるのは事実の ようです。また参加の理由は各人様々です が自発的参加である点は否めなく、森林へ の理解とイベント内容がより肯定的に終る ような努力は今後も必要です。

「国道 334号線知床峠」 「道道知床公園線」

夏期観光客で賑わった2本の道路が降雪期を 迎え閉鎖されました。国道は10月25日から道道 は11月 4日から、いずれも斜里町の知床自然セ ンター付近のゲートから奥地に向って来春まで 長い眠りに就きました。

近辺の高山も雪化粧を始め、針葉樹と葉を落 した裸の広葉樹が黒と裾褐色のモザイク模様を 作っています。赤い実をたわわに付けたナナカ マドが鮮やかな点景となっています。道路と共 に知床の森林も深い眠りに入っていきます。

